様式１

平成 29年度　学 校 評 価 自 己 評 価 表

神 石 高 原 町 立 神 石 小 学 校

１　経営理念（ミッション・ビジョン）

Ⅰ 教育に係るマネジメント　（1）人を育てる人が育つ学校 〈**教師**〉　（2）子供の姿で教育を語る学校 〈**子供**〉
（3）シンプル イズ ベストが定着した学校　〈**高い質**〉
Ⅱ 組織に係るマネジメント　（1）子供も教師も自らの伸びを自己評価しながら，学びを楽しむ学校
（2）ミドルアップダウン，DCAPサイクルによる組織運営

２　めざす子供像

柔軟に考える かしこい子
挑戦する たくましい子
集中する さわやかな子

『 リーダーになろう　～夢・挑戦・感動～』

３　経営目標・評価項目・評価・達成状況

	評価計画						自己評価				
	中期経営目標	短期経営目標	重点	目標達成のための手だて	評価指標 評価項目	評価指標 目標数値	時期	達成値	短期経営目標の達成状況	評価	改善方策
確かな学力	基礎・基本の学力を定着させ，活用力を伸ばし，思考力・判断力・表現力を育てる	神石小版「学びの変革アクションプラン」に基づき，児童が主体的に学ぶ課題発見・解決学習による協働的な学習をすすめることにより，児童の学力向上を図る	1	総合的な学習の時間に係る学校教育研究を基に，すべての教科において課題発見・解決学習を展開し，基礎的・基本的な学力の定着を図る。	1　各学年の学期末，学年末テストが全国平均を上回る。 2　基礎・基本定着状況調査の結果が県平均を上回る。 3　全国学力・学習状況調査の結果が全国平均を上回る。 4　標準学力調査の結果が全国平均を上回る。	1　国語科 85% 算数科 80% 2・3 本校平均÷全国（県）平均が105%	中間	1 ＜国語＞ ・1年（86%）・4年（91%）・6年（100%） ＜算数＞ ・1年（88%） 2　基礎基本定着状況調査　国語 本校73.1%　県平均68.0%　本校÷県＝107% 算数　本校76.6%　県平均74.3%　本校÷県＝103% 3　全国学力学習状況調査について 国語A本校72　全国74．8　国語B本校67　全国57．5　本校÷全国平均＝104% 算数A本校75　全国78．6　算数B本校38　全国45．9　本校÷全国平均＝90%	1　各学年の1学期末テストが目標点数を上回っている児童数を調査した結果は以下の通りである。 ＜国語＞ ・4年（91%）・6年（100%） ＜算数＞ ・1年（88%） 国語においては、問題に合った正しい解答の仕方に課題があった。 算数では、筋道を立てて考える力に課題があった。 2　基礎基本定着状況調査について 国語　本校73.1%　県平均68.0%　本校÷県＝107% 算数　本校76.6%　県平均74.3%　本校÷県＝103% ともに県平均を上回っている。国語においては登場人物の気持ちを文章表現から根拠を明らかにして考える問題に課題があった。算数では、必要な言葉や数字を使って，式の意味を記述で説明する問題に課題があった。 3　全国学力学習状況調査について 国語A本校72　全国74．8　国語B本校67　全国57．5　本校÷全国平均＝104%　国語は全国平均比105%の目標値に近い結果であった。手紙の後付けの書き方、決められた条件の中で考えをまとめて書くことが課題 算数A本校75　全国78．6　算数B本校38　全国45．9　本校÷全国平均＝90%　算数は、基礎的な計算などはできていたが、式の説明や与えられた情報から割合の関係を捉え説明する問題に課題があった。	C	1　国語では、解答欄の形式に合わせて解答させる。漢字の成り立ちを押さえて，正しく書くようにさせる。算数では，筋道を立てて考えることができるように，考え方の流れを明確にして式の意味をノートに書かせて，説明させる。 2　国語では，登場人物の気持ちを考えるときに，文章中のどの表現からその気持ちを想像したのか理由をはっきりさせて考えさせる。算数では，式を立てるときに「まず」「次に」という言葉を使って式の意味をノートに書き，筋道立てて説明できるようにさせる。 3　手紙の書き方や生活の中で平均や割合を使ってみるなど，身の回りのことと学習した内容を関連させて考えられるように，学習内容を工夫する。算数においては，問題把握の場面で「分かっていること」「求めること」をはっきりさせ，どのように求めればよいか見通しをもたせて，課題解決に取り組ませる。式の説明は，「まず」「次に」という言葉を使って式の意味をノートに書き，筋道立てて説明できるようにさせる。
						1　国語科 85% 算数科 80% 2・3・4 本校平均÷全国（県）平均が105%	年度末	1 ＜国語＞ ・4年（90%）・5年（100%）・6年（100%） ＜算数＞ ・5年（90%）・6年（100%） 4　標準学力調査 国語科　全国平均を上回った学年は5学年， 算数科　全国平均を上回った学年は3学年 本校平均÷全国（県）平均が105%という指標で見ると，目標達成 国語科は4学年 算数科は2学年 【5年生】 （国語科） 基礎基本定着状況調査 国語　対県平均107%　算数　対県平均103% ↓ 標準学力調査 国語　対全国平均109% 算数　対全国平均115%【6年生】 全国学力学習状況調査　国語 対全国平均104% 算数　対全国平均90% ↓ 標準学力調査 国語　対全国平均115% 算数　対全国平均112%	1　各学年の2学期末テストが目標点数を上回っている児童数を調査した結果は左記の達成値の通りである。 ＜国語＞ ・登場人物の気持ちを考えるときに，文章中のどの表現からその気もちを想像したのか理由をはっきりさせて考えたり，漢字の成り立ちをおさえて，正しく書くようになった。 ＜算数＞ ・算数用語を用いて，「まず」「次に」という言葉を使って式の意味をノートに書いたり，問題把握の場面で「わもたど」を明確にして課題解決に取り組んだりできた。 4　標準学力調査 5年生は，基礎基本定着状況調査の国語科算数科の対県平均と比較し、改善が進んでいると考えられる。 6年生は全国学力学習状況調査の国語科算数科の対全国と比較し改善が進んでいると考えられる。 しかし，学校としては全体的に算数科の方が正答率が低く，特に，数量や図形に関する知識理解の正答率が低い。	c	1　国語では，以下の3点を今後も引き続き取り組んでいく。 ①漢字の成り立ちをおさえて正しく書くようにさせる。 ②登場人物の気持ちを考えるときに，文章中のどの表現からその気持ちを想像したのか理由をはっきりさせる。 ③ゲストティーチャーへのお礼の手紙を書かせる時に，手紙の書き方について指導する。 また，表現力をつけるために，「言葉の宝箱」を活用して語彙を増やす。 　算数では，以下の3点を今後も引き続き取り組んでいく。 ①算数用語を用いて，「まず」「次に」という言葉を使って式の意味をノートに書かせる。 ②問題把握の場面で「わもたど」を明確にして課題解決に取り組ませる。 ③生活の中で平均や割合を使ってみるなど，身の回りのことと学習した内容を関連させて考えることができるように，学習内容を工夫する。 現在，3学期末テストで達成できるように取り組み中である。また,来年度も引き続き，改善方策に取り組む。 4　来年度，算数科を研究推進の中心にすえて，課題発見解決学習に取り組む。そのために，まず，教師の教材研究をしっかり行い，1年から6年までの系統的な学習内容や単元でつけたい知識・算数用語，技能，思考力を意識した1単元分の計画を作成して，児童に教えることはきちんと教えきる取り組みを行う。 話し合いを活性化させるために，つなぎ発言，質問やアドバイス，批評発言をうながしたり，ペア学習，グループ学習を取り入れる。また，児童が意欲的に取り組み，単元全体の学習（知識・技能・思考力）を活用して解決できるパフォーマンス課題を開発して取り組む。また、年度末に標準学力調査をもとにした改善計画を立て、取り組む。
豊かな心	他者と共によりよく生きようとする豊かな心を育てる	心を育て，豊かな生き方の基盤となる読書活動を推進する	2	神石小読書百選の活用により，学年に応じた読書目標を達成する。	低学年は毎月20冊以上，中学年は毎月500ページ以上，高学年は毎月800ページ以上，本を読む。	中間　85%	中間	71%	9月末までに、ひと月ごとの読書目標を集計したところ、平均で71%の児童が目標の冊数またはページ数を達成していたが、目標値に届くことができなかった。達成できていない児童が固定化されていること、達成した月はあるが、月によっては達成していない時がある児童が見られることが今後の課題である。	C	読書が習慣化していない児童が多いので、学年に応じて月に決められた回数以上図書室に行って本を借りるなど、図書室へ足を運ばせるような取り組みや継続的な声かけが必要である。
						年度末95%	年度末	1月末現在までの読書目標の達成の割合・・・78%	4月から1月末までに読書目標を達成できた児童の割合の平均は78%であったが，10月以降の達成できた児童の割合は86%であり，中間時点よりも多くの児童が読書目標が達成できた。しかし，目標の95%には届かなかったため，来年度もより多くの本を児童が読む取り組みを続けていく。	C	10月以降，ビブリオバトル・読書集会・図書委員会のおすすめの本紹介などの取り組みを行ってきたので，これらを単発で終わらないようにするためにも来年度も継続して行い定着させる必要がある。 また，読書百選の内容の見直しを定期的に行い，児童にとって多くの本に興味を持ってもらうようにする必要がある。また，達成できていない頻度が多い児童には，図書担当と担任が連携して，個別に対応していく。 また，読書百選の達成状況に応じて表彰を行い，動機付けを行っていく。（低学年50冊，中学年80冊，高学年100冊）

評価　A・・・・目標を完全に達成した　B・・・目標を概ね達成した
C・・・・目標をあまり達成できなかった　D・・・目標を達成できなかった

様式１

平成 29年度　学 校 評 価 自 己 評 価 表

神 石 高 原 町 立 神 石 小 学 校

１ 経営理念（ミッション・ビジョン）

Ⅰ 教育に係るマネジメント　（1）人を育てる人が育つ学校 〈**教師**〉　（2）子供の姿で教育を語る学校 〈**子供**〉
（3）シンプル イズ ベストが定着した学校　〈**高い質**〉
Ⅱ 組織に係るマネジメント　（1）子供も教師も自らの伸びを自己評価しながら，学びを楽しむ学校
（2）ミドルアップダウン，DCAPサイクルによる組織運営

２ めざす子供像

柔軟に考える かしこい子
挑戦する たくましい子
集中する さわやかな子

『 リーダーになろう　～夢・挑戦・感動～』

３ 経営目標・評価項目・評価・達成状況

	評価計画						自己評価				
	中期経営目標	短期経営目標	重点	目標達成のための手だて	評価指標 評価項目	評価指標 目標数値	時期	達成値	短期経営目標の達成状況	評価	改善方策
健やかな体	目標を持って進んで体をきたえ，やりぬく気力と体力を育てる	児童が自ら体力を高め，健康な生活を創り出す力を育てる	3	1　走力・持久力を向上させるために，マラソンタイムで持久走，縄跳びを継続し，体力向上を図る。 2　健康の維持向上を図るため，「生活チャレンジ」に取り組む。	1　新体力テストの「シャトルラン」で，県平均を90%以上の児童が上回る。 2「生活チャレンジ」について，毎月振り返り調査を実施し90%以上の児童がパーフェクトを達成する。	1・2　80% 1・2　90%	中間	1　73% 2　62.6%	1　1学期新体力テスト結果は，73%だった。学年によって，体力差があることが明らかになった。全校での取り組みも今後も続けていかなければならないが，学年単位で体力的に弱いところを分析して，体育などで取り組んでいくことが必要である。 2　毎月「生活チャレンジ」の振り返り調査を実施し，62．6%の児童がパーフェクトを達成した。よって，中間では達成目標を下回る結果となった。	C C	1　業間体育での全校マラソン・なわとびを続けていくとともに，新たに「鬼ごっこタイム」等を設け，体力向上に努める。また，各学年の体育の時間の始めにも，20mダッシュなどの体作り運動に取り組み，体力の向上に努める。 2　毎月の集計結果「ほけんだより」をもとに，全校朝会で児童に伝えたり，体重測定の時間を利用して学級指導をしたりして，児童の意欲喚起を図る。
							年度末	1　71% 2　78．8%	1　2学期新体力テスト結果は，71%だった。低学年はおおむね目標値を達成しているが，高学年になるにつれて目標値を下回る児童が多かった。また，前回の記録よりも下がっている児童もおり，身体は成長しているが運動能力が伴っていない状況も明らかになった。 2　毎月「生活チャレンジ」の振り返り調査を実施した。学校平均は95．7%と上がってきたものの，パーフェクト達成者は78．8%となり，目標値を上回ることはできなかった。早寝早起きに課題が残る。	C C	1　日常的な運動習慣を身につけさせる。今後も業間体育での全校マラソン・なわとびを続け，鬼ごっこタイムも継続して取り組んでいく。また，外遊びを推奨し日常の中に運動することを根付かせていく。そして，運動するときには目標を持たせそれを達成することで運動の楽しさを味わわせ，運動を進んでするような児童にしていく。 2　生活習慣，特に早寝早起きについての実態把握や生活改善を行うためには，取組期間中の家庭連携も必要であるため，連携をとりやすい様式にすることも手立ての一つと考えられる。
信頼される学校	児童・保護者・地域に信頼される開かれた学校を創る	安心して伸び伸びと力が発揮できる，行きたい・行かせたい学校を創る	4	1　児童一人一人が大切にされる学校を作る。 2　保護者や地域住民の学校教育への満足度を高める。	1　学期末に行う児童アンケートの3項目「いやなことを言われたり，からかわれたりしない」「ひとりぼっちではない」「気持ちをわかってくれる人がいる」に対して，90%以上の児童が肯定的に評価する。 2　運動会，公開研究会，学習発表会において，保護者・地域アンケートを実施し，95%以上の児童が肯定的に評価する。	1　85% 2　90%	中間	1　80．2% 2　97．6%	1　アンケートを行った結果，全体としては目標値を少し下回った。アンケートの項目別に見ると，「ひとりぼっちではない」は90．5%，「気持ちがわかってくれる人がいる」は95．2%と目標値を超えているが，「いやなことを言われたり，からかわれたりしない」の項目は57．1%と大きく下回っていた。アンケート後，面談を行った結果，「いやなことを言われたり，からかわれたりしない」の項目に対して否定的な評価をしていた児童のほとんどが友達との突発的なけんかが原因であった。継続しているということはほとんどなかったが，児童の中で解決しきれていないことがあると考えられる。 2　アンケート調査において，概ね肯定的な評価が多かった。そのため，目標値を超えることができた。	B A	1　全校朝会や一斉下校など，児童全員が集まる場で全体指導を行う。そのとき，実際に起こっているけんかや言い合いを具体例として考えさせることで，自分自身はどうか考えさせる。また，反対に児童会を中心に行っている「いい言葉見つけ」を紹介し，その言葉を増やしていくように指導する。アンケートを実施する際には，「いやなことを言われたり，からかわれたりしない」の項目については，継続して「されている，または頻繁にされている」かどうかを考えて記入させる。児童の話をしっかり傾聴し，誰もが納得できるように指導する。 2　児童が普段の授業や学校生活が充実していると話す内容も前向きな発言が多くなり，保護者も安心することができると考える。1日の中で，児童にしっかりと達成感を味わわせ，伸び伸びと力を発揮させられるように，毎日の授業や児童へのコミュニケーションを大切に指導する。
						1　90% 2　95% 年度末：90%	年度末	1　84．8% 2　98．2%	1　アンケートを行った結果，全体としては84．8%で目標値を少し下回った。アンケートの項目別に見ると，「ひとりぼっちではない」は98．1%，「気持ちがわかってくれる人がいる」は88．7%，「いやなことを言われたり，からかわれたりしない」は71．7%となった。中間評価でのアンケート結果より肯定的な回答は増加した部分もあった。しかし，「気持ちがわかってくれる人がいる」の項目は中間評価より減少した。否定的な評価をしていた児童の中には，特定の児童との関係の中で言い合いやけんかが起こっているということがわかった。継続しているということはほとんどなかったが，児童の中で解決しきれていないことがあると考えられる。 2　アンケート調査において，概ね肯定的な評価が多かった。また，中間評価よりも肯定的な評価が増加し，より高い数値となった。	B A	1　現在，児童間で起こっている問題は学級担任を中心に組織的に速やかに解決に向けて取り組む。その時，児童の話を傾聴し，話したことを記録しながら話し合いを進める。また，児童の関係性を把握し，来年度の指導につなげる。その他にも，来年度も継続して児童会を中心に行っている「いい言葉見つけ」を紹介し，その言葉を増やしていくように指導する。 2　児童が活躍したり頑張ったりする姿を見ることで，保護者や地域の方も安心して児童を学校に行かせることができると考える。来年度は，発表会のように大きな行事だけではなく，授業参観や学校へ行こう週間など普段の学校生活に近い環境でも肯定的な評価をしてもらえるようにする。

評価　A・・・・目標を完全に達成した　B・・・目標を概ね達成した
C・・・・目標をあまり達成できなかった　D・・・目標を達成できなかった